

日本最大の湿原

釧路湿原の面積は 17,570 ヘクタールで、日本最大の湿原です。釧路湿原は、ヨシ・シゲ湿原、ミズゴケ湿原、ハンノキ林で構成され、3 つの地層で成り立っています。表面から 1~4m の深さの最上層は、泥炭堆積物です。泥炭とは、湿原の冷水の中で、完全には分解されなかった植物の堆積物です。釧路湿原は一年に 1mm の厚さで泥炭を蓄積しています。泥炭の下層は泥や砂で、最下層は、湿原が海の一部だった時代の小石や化石化された貝殻の層となっています。

この湿原が形成され始めたのは、何千年も前のことです。現在のこの湿原地帯は、約 6,000 年前に旧釧路湾の一部となりました、それは海面が上昇したことにより低地が水面下に入り、海岸線が内陸に移動したという、縄文時代（紀元前 14,000~300 年）にちなんで命名された、「縄文海進」として知られる地質学的事象による結果です。約 4000 年前、気候の寒冷化と共に、海が後退し始めました。その結果、湾の入り口に砂丘が形成され、この湾は海から完全に切り離されました。約 3000 年前、海が切り離されいくつかの海跡湖となり、これが釧路湿原の基礎となりました。